

平成20年度活動・事業報告

NPO法人全国生涯学習まちづくり協会の目的の達成をめざして、会員の学習の充実やまちづくりの推進など充実した活動と、財政の健全化をめざして、以下のような事業（活動）を計画し実施した。

1. 協会組織の充実

理事の再任と新生スタッフの委嘱

本部事務局スタッフの改定と機能の充実

協会の活発的な活動を維持、継続し健全に運営するために、本部事務局に事務スタッフを配置。日常的な運営について検討した。

2. 会員組織の維持に努力

本部組織に常勤スタッフがいないなどの理由から、弱体化していると思われる。そのためその建て直しに努力した。まちづくり研究会組織内の自治体は、ケセン地区支部の発足など活性化している。しかし一部には会員の高齢化や会員数の維持困難などの停滞している部分もある。

3. 大学との連携

聖徳大学生涯学習研究所との連携事業を実施。共同事業として「聖徳大学生涯学習フォーラム」「子どもをほめよう研究会」「旅のもてなしプロデューサー養成講座」などの事業を共催した。

4. まちづくりボランティア事業の拡充

全国生涯学習まちづくり協会が推進する資格事業は、10年間で地域アニメーターは延べ9,000名、まちづくりコーディネーターは1,000名受講した。

更なる受講者数増加を図るため、今年度も7自治体で研修が行われた。結果、160名程度の受講があった。

地域アニメーター養成講座（自治体が主催する事業に協力）

可児市（岐阜県）、平戸市（長崎県）、大船渡市（岩手県）、東御市（長野県）、松戸市（千葉県）、館山市（千葉県）等で自治体の公民館講座および団体等と連動して行う。

旅のもてなしプロデューサー養成講座～もてなし体験研修～

平成20年1月24日～25日 岩手県陸前高田市「陸前高田ドライビングスクール」他

近畿日本ツーリスト、日本余暇文化振興会、聖徳大学生涯学習研究所との協働事業で今回初となる実地研修を含めた講座を全国生涯学習まちづくり協会支部を中心に実施。資格認定は財団法人余暇文化振興会が行い、約20名のたびのもてなしプロデューサーが誕生した。

まちづくりコーディネーター養成講座

平成20年9月13日・14日 千葉県聖徳大学生涯学習社会貢献センター

まちづくり協会主催事業として9月に実施。審査の上、約20名のまちづくりコーディネーターが誕生した。

4. 広報活動の徹底

インターネットホームページ「まち研」

URL : <http://machi-ken.jp/>

全国の創年活動を普及するために開設した「創年ねっと」にプラスし、まちづくり協会で行った事業及び会員への情報公開、新着ニュース、理事長の「列島めぐりあい」など、生涯学習まちづくりに関する最新情報を提供できるよう、デザイン、URLを新たにリニューアルした。

「HOWまち」(季刊誌) 新聞の発行

全国生涯学習まちづくり協会で行った事業報告及び会員の活動報告等最新のニュースを紙面にて広報できるよう約3年ぶりに「HOWまち」を復活させ、季刊誌として学生の編集協力のもと発行した。

5. 全国規模の研究大会

「全国生涯学習まちづくりサミット」

平成20年10月11日

福島県南相馬市 約200人の会員が参加

文部科学省と埼玉県が開催する「第21回全国生涯学習フェスティバル」の一環として開催されるもので、南相馬市を会場に盛大に開催された。

「創年と子ども～全国子どもをほめよう研究大会 in 矢板」

平成20年11月15日～16日

栃木県矢板市 約800人が参加

カメイ社会教育振興財団の助成を受け、実施。

「第10回聖徳大学生涯学習フォーラム」

平成20年6月22日

千葉県聖徳大学生涯学習社会貢献センター

「全国生涯学習市町村協議会 生涯学習まちづくりフォーラム東広島大会」への協力

平成21年2月6日

広島県東広島市 多数の会員が参加

7. 創年活動の推進

「創年市民大学」

聖徳大学生涯学習研究所との共催で生涯学習まちづくり講座を10会場で開催する。

志布志市(鹿児島県) 平戸市(長崎県) 可児市(岐阜県) 東御市(長野県) 矢板市(栃木県) 松戸市(千葉県) 館山市(千葉県)

うち、志布志市(鹿児島県)は市からの委託を受け、大学のプログラム構成等運営に関わる。

「創年のたまり場」の充実

全国の創年のたまり場を調査、たまり場としての登録件数を増やした。

各創年のたまり場にてイベントの開催を行った。

8. 研究事業

全国生涯学習まちづくり共同研究